

第12回院内感染対策中央会議での論点

1. 地域連携について

- 緊急時に地域の医療機関同士が速やかに連携して各医療機関の対応への支援が行われるようにすることが重要であるが、対応を確実なものとするために、地域連携のハブとなる医療機関にはどのような役割が求められるか。
- 今後の地域連携のあり方はどのような形が考えられるか。

2. 感染制御における感染管理看護師（Infection Control Nurse (ICN)）の役割について

- 病院内において、感染対策の基本となる事項の把握は職種に関わらず必要であるが、感染管理看護師は、感染制御においてどのような役割を担っているか。
- ICN が感染制御において果たしている役割を踏まえて、感染制御の体制をどのように整備するべきか。
- 手洗いなどの基本的な標準予防策の教育から、統計的手法を用いた問題点の抽出まで、ICN に求められる能力は多様であるが、それらを踏まえた人材育成の課題にどう取り組むのか。

3. 医療機関に求められるアウトブレイク対応について

- 三重大学の多剤耐性アシネトバクターアウトブレイクの事案から、どのような教訓が得られるか。
- アウトブレイク対応にかかるコストとベネフィットをどのように考えるか。

4. 抗菌薬の適正使用について

- 入院、外来診療において、抗菌薬の適正使用を推進するためには、医療機関内でどのような取り組みが必要か。
- 入院患者に対する感染症治療において、感染制御部などによる介入は有効に機能するか。
- 一般国民への理解を深めるためには、どのようなことが必要か。

5. サーベイランスの強化について

- 厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）新規参加施設が急増している状況において、いかにしてデータの質を確保していくべきか。
- 参加医療機関がサーベイランスデータをより有効活用するために、どのようなデータの提供が必要か。
- 海外との比較を可能にするために、どのようなデータが必要か。